

旧領主旗本江原氏の墓

香取遺産

Vol. 25



▲真浄寺本堂 ▶旗本江原親章の墓

蓮寿山真浄寺は沢に所在する日蓮宗の名刹です。元々は檀家を持たないお参り寺でした。

本堂は、間口柱間三間、奥行同四間で、正面に間口一間の向拝を付しています。屋根は宝形造の高く見栄えのする屋根で、銅板葺（元茅葺）に改築されています。建築年代は小屋柱の墨書から元文5年（1740）と推定されます。正面寄りの一間に「吹放ち」の構造を設けていることが特徴の一つであり、昭和53年5月に市指定文化財となっています。

中世以来香取地域の在地領主であった国分氏との関係が深く、寺伝では、天正18年（1590）矢作城が

落城した際、その遺臣が当寺に立て籠もり、堂宇が焼失したとも伝わります。

落城後は、徳川家康の家臣鳥居元忠が矢作領4万石を領し、沢村759石余もその内に含まれました。沢村は、その後旗本江原氏知行地となり、さらに寛文7年（1667）には同じ江原氏二氏の相知行地となったようです。幕末期には江原氏595石余、江原氏164石、代官支配所（幕府領）140石余、用水溜井除地9石余、計909石余の村となっています。

真浄寺境内には、沢村領主、旗本江原親章（9代目）の墓が一基残されています。高さは約150cmで、笏石正面には「威徳院殿興

仁禮讓大居士」「文化二乙丑年正月十日逝去」の文字と2つの家紋が刻まれています。

江原氏は、沢村595石余の他、岩部村、返田村、求名村（現東金市）、下鶴間村（現神奈川県大和市）に合わせて1700石の知行地を持つ旗本で、9代目親章は、小納戸や西丸小納戸、目付などの役職を勤めました。

江原氏の葬地は市谷善慶寺（現新宿区）であり、なぜ親章の墓だけ真浄寺にあるのか不思議です。台石の側面には、建立者と思われる11人の名前が刻まれています。親章の死後、これらの人々が旧領主を偲んで建立したのでしょうか。